

税を支払う、幸せをもらう

長万部町立長万部中学校 三年 篠田 涼帆

いつもと同じ時間に、いつもと同じ通学路を自転車であつていた。いつもの曲がり角を曲がって、私は驚いた。

「見て！真つ白！きれい！」

薄くなつていた横断歩道の線が、濃く、はつきりと変わつていた。私は思わず一緒に通学していた姉に話しかけ、「本当だ！」と笑いあつた。朝の小さな幸せだつた。

私の町は、今いたるところで道路の整備が行われている。今日はこの道路がツルツルになつている。今日はここが、と話しながら、真新しい道路の上に自転車を走らせるのが、最近の私の楽しみだ。この作文を書くにあつて、私はそんなことを思い出した。今まではぼんやりとしか理解していなかつた、「税金は国民の生活に役立つ」という言葉の意味を実感した。この町の、あの横断歩道だけでなく、今も日本の至る所で道路の整備がされて、私のように嬉しくなつている人がいる。この国が、小さな幸せで溢れている。

そこで私は、この国の至る所で、毎日このような工事を行うのに、どのくらいの税金がかかるのだろうかと思つたので、調べてみた。すると、令和五年度の国の税金の総額である、約五十七兆円のうち、工事などの公共事業関係費は、五パーセントである、六兆円が使われていた。やはり規模が大きい。また、所得税、法人税、消費税が、総額のうちの八十パーセントを占めていと書かれていた。

私はまだ子供なので、所得税も法人税も、ぼんやりとしか分からないし、消費税くらいしか支払つたことではない。それでも微力ながら、私の支払つた税が、誰かの小さな幸せになつている。そして、私自身の幸せにもなつている。

アイスクリームを買つて、税を支払つて、幸せをもらう。可愛いTシャツを買つて、税を支払つて、幸せをもらう。微力ながら、幸せの循環に、貢献している。そう考えて私は今とても嬉しい気持ちになつたが、税を支払うことをあまりよく思わない人もいる。私の周りにもいる。日常の幸せには、税が関わつていることを、知つてほしい。そして、感謝を伝えたい。

一億二四八八万人の皆さん、私の朝の小さな幸せをありがとう。

ゴミのない、横断歩道も白線も見やすい、安全な通学路をありがとう。

見慣れない教室で、新しいピカピカの教科書に、名前ペンで書き慣れない学年を書く私のウキウキをありがとう。

友達と勉強ができる図書館、その後にはしゃいで笑い合える公園をありがとう。

税を支払う、安心をもらう。

税を支払う、幸せをもらう。